

学校評議員会の実施報告書

学校名 岐阜県立長良特別支援学校
校 長 鹿嶋 成美
所在地 岐阜市長良 1237-1 電話 058-233-7418

- 1 会議の名称 岐阜県立長良特別支援学校 第1回評議員会
- 2 会議の構成
- | | | |
|-----|--------|--------------------|
| 委 員 | 嶋崎 喜代美 | 東長良公民館主事 |
| | 川崎 博之 | 長良緑町自治会長 (欠席) |
| | 下平 悦子 | 長良医療センター 医療社会事業専門員 |
| | 安藤 由美子 | 長良園芸 |
| | 星山 真喜子 | 長良特別支援学校 PTA 副会長 |
- 学校側
- | | |
|-------|-------|
| 鹿嶋 成美 | 校長 |
| 前田 晴美 | 教頭 |
| 佐藤 栄一 | 事務長 |
| 井原 誠 | 小学部主事 |
| 林 昭男 | 中学部主事 |
| 大平 隆司 | 高等部主事 |
| 佐野 幸弘 | 教務主任 |
- 3 会議の目的 学校運営等について、地域の代表者や福祉・医療機関の関係者及び学識経験者から幅広く意見を聞き、その提言・助言をもとに地域社会からの支援・協力を得て「開かれた学校づくり」の推進を図る。
- 4 会議の開催 平成30年6月18日(月) 13:30~15:00
- 5 会議の概要
- (1) 校長あいさつ、学校評議員への委嘱状交付
 - (2) 自己紹介
 - (3) 学校見学
 - (4) 議事
 - ① 学校の運営と概要
 - ② ビデオによる学校紹介
 - ③ 各部の教育活動について
 - ④ 特色ある教育活動について
 - ・ 交流及び共同学習、進路の状況、PTA活動
 - ・ 4月からの様子
 - (5) 学校評議員からの提言
 - ① 学校見学をしていただいて
 - ② その他

- (6) 連絡等
- (7) おわりの言葉

【学校評議員からの意見、提言】

①教育活動に関すること（見学した感想）について

- 意見1：児童生徒が元気いっぱい、自分の力を発揮していたので感激した。どのような形でもよいので、役に立ちたいと考えている。
- 意見2：授業がよく工夫されていた。一人一人の目標が設定されており、達成したことを教員が児童生徒と一緒に喜ぶところがよかった。（本人の）障がいの受け入れが一人一人で違うことに応じた対応がされていた。
- 意見3：実習を受け入れているが、生徒と接していると素直で、笑顔があふれている。教室での様子を見せていただいても、児童生徒が豊かに育っているのが分かる。先生方の質の高さ、児童生徒に心を寄せている様が見てとれた。体温調節が難しい子への対応や、カーテンをして目隠しをするなど環境も整えられていた。「元気な病弱教育」ということを、授業の中で生き生きと示し、もてる力を引き出そうとすることや共感することなど見られてよかった。
- 意見4：訪問教育でお世話になっているが、授業参観は初めてだった。小学部・中学部・高等部で学級分けも細かくされて、様々な障がいの子への対応がなされていた。集団で行動することは難しいと思うが、社会に出る前の段階なので、集団での取組も大切だと思う。

②防災に関すること

- 意見1：今朝地震があったが、実際に遭遇すると焦ると思う。やはり訓練をしっかりやるのが大切だと思う。高等部の身体の高い生徒が床に降りていると、車いすに乗せることもたいへんになる。様々な子に対応することは難しいが、細部にも気を付けながら行うことが大切である。学校で起きたことは、学校の責任になってしまうので、十分に気を遣って取り組んでいただきたい。
- 回答1：学校は何もなくて当たり前場所である。児童生徒の命にかかわること、怪我等がないように、考えられるところをすべてやっておかなくてはならない。防災対策についても、今までは型にはまったところがあった。当校の場合、避難するときには医療センターと連携しなくてはならない。そのために、どこへ逃げたらよいのか考えないといけない。夏季休業中にも防災士に来ていただいて、シュミレーションの機会をもつ。考え付くことをやっていきたいので、気が付かれることをその都度教えていただきたい。
- 回答2：昨年度もミニ命を守る訓練を、段階的に行ってきた。本年度もいろいろな想定をしながらの訓練を考えている。日常的に起こるヒヤリハットも出し合いながら、職員の危機管理意識を高めていきたい。

③キャリア教育、卒業後に向けての支援について

○学校評価アンケートの結果、「わからない」の回答が多い、関係機関との連携やキャリア教育について、助言をいただきたい。

意見1：PTAの役員をやるようになって、学校に足を運ぶようになった。これまでは学校へ足を運ぶ機会があまりなかった。病棟にいと学校に所属しているという意識が低く、他の保護者と顔を合わせる機会も少なかった。あと6年と思うと寂しい。PTA活動を通して保護者同士のかかわりを深めたい。もっと訪問教育の保護者が学校に来やすくなるとよい。

意見2：園芸店での実習では、草花、土に触れることが多いが、仕入れた苗に値札を貼ってもらったり、バーコード化したりすることなどもやってもらっている。単純作業であるが、集中力だけでなく、報告すること、状況を把握して伝えることなど「報・連・相」が大事になる。これは社会人への第一歩といえる。また、素直なこと、明るく挨拶ができることも大切。体力的に大丈夫な人であれば、栽培関係の仕事も考えてみるとよい。園芸療法というものがあるように、土に触ることで元気になる。

意見3：(医療機関にいるものとしては) 学校に通っている(在学中)の子は、学校がその子や家族について把握して、サポートしているため安心である。学校を卒業後にどこへつなげるかが問題である。卒業後、その子その子に合ったところにつないでいくことが大切だが、社会へ出てからどこへお願いするのか、サポートするのか悩むところである。本人、ご家族と長くかかわることができるように、医療としても一緒に考えていきたい。

意見4：卒業生の校務補助員は、大学にも4年間通われたが、就職先が見付からずに大変だったときに、将来を開いてくれたのは長良特別支援学校の恩師の先生だったと聞いた。長良で働きながら、自分の経験を生徒に伝えてくれるとよいと思う。

6 会議のまとめ

いただいた意見・助言を、今後の学校運営に生かし、安心・安全な教育体制を推進していく。